場所　東京都渋谷区

面積　0.44ha



活動目的

サッポロ広場の継続的な管理を通じて、在来種を中心とした健全な生態系の保全と充実に取り組むとともに、多様なステークホルダーを巻き込み、グループ会社の事業特性に応じたイベントを実施することで、生物多様性の啓発に取り組む。

サイト概要

東京都渋谷区恵比寿に位置する恵比寿ガーデンプレイスは、都心にありながら敷地の約6割がオープンスペースである複合施設。その中にあるサッポログループ本社棟前の「サッポロ広場」は一般に開放された庭園で、モミジやツツジなど季節の移ろいを感じることができる。庭園の奥には兵庫県の西宮神社から御分霊（えびす様）を祭る「恵比寿神社」の社があり、常緑樹が多く見られる。

土地利用の変遷

1889年：ビール醸造所を建設。約100年にわたり、まちと駅名の由来である「恵比壽ビール」を製造。
1994年：上記移転に伴い、「恵比寿工場跡地再開発計画ー水と緑の山の手情報文化都市」構想のもと、ヨーロッパテイストな恵比寿ガーデンプレイスに生まれ変わる。
2017年：サッポロ広場を、「見る庭園」から「集う、憩う、つながる場」とするため、都会で見ることの少ない多様な植物を四季折々に楽しめるよう、サッポロ広場をリニューアル。現在に至る。

サイト周辺の環境

周辺には緑地や公園が点在しており、約600m南東には『国立科学博物館附属 自然教育園』、3km圏内には『有栖川宮記念公園』や『林試の森公園』がある。それらの緑地のつながりが、鳥類の生息地・繁殖地となり、都心の貴重な生態回廊を形成している。

アピールポイント

＜希少種を含む、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存在する＞
・在来種の樹木を中心に緑化を行っている。
・希少種のモズが確認されるなど、鳥類が生息・繁殖する緑地ネットワークの一部となっている。
＜都市域で、自然ふれあいの場、環境教育の場を提供している＞
・2020年8月より、広場内に「YEBISU GARDEN FARM」を開園。近隣地域を巻き込み、作物などを育て収穫するなどの取り組みを実施。
・グループ会社にて、地域の子どもたちと1年を通じてレモンの観察を実施。
＜都市域で、癒しの場を提供している＞
・開発により伐採予定だった景丘公園の桜*をサッポロ広場内に移植し、定着させた。
*ビール工場があった頃から生育する桜の大木で、まちの皆さまの『癒やしの場』となっていた。
・恵比寿ガーデンプレイスはSEGES「都市のオアシス」に認定されており、社会・環境に貢献し、快適且つ安全な都市緑地を提供していることが認定されている。

生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

【場の概況】

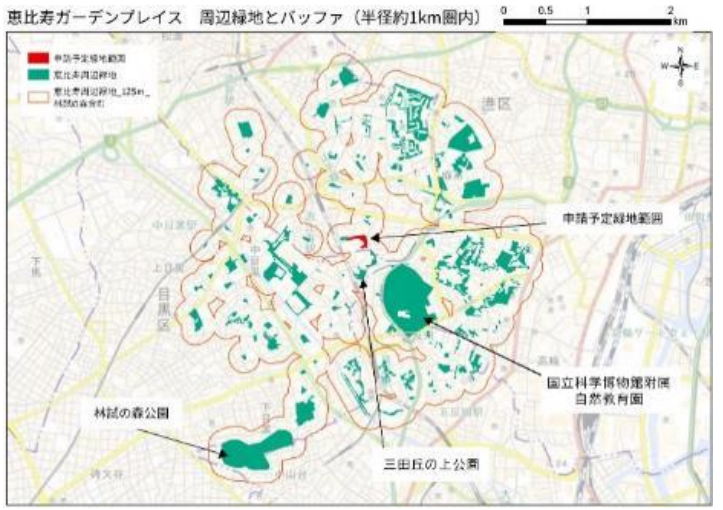
『国立科学博物館附属 自然教育園』や『林試の森公園』などにつながる、緑地ネットワークの一部として立地している（右図）。『三田丘の上公園』など、周辺の公園や緑地と一体となり、鳥類や昆虫類の生息地・繁殖地としての役割を担っていると考えられる。

【主な植生】

・サッポロ広場内には、モチノキやモッコク、エゴノキなどが植栽されている。
・サッポロ広場と歩道の境界には街路樹としてクスノキが列状に植栽されている。

【緩衝機能や連続性・連結性の機能】

申請サイトは周辺の公園や緑地などで構成されている緑地ネットワークの一部となっている。都市内の貴重な緑地の連続性や連結性を高める機能を有することで、鳥類や昆虫類の生息地・繁殖地としての役割のほか、申請サイトで確認されたメジロや希少種であるモズ(東京都絶滅危惧IA類（区部）)などの鳥類の緑地間の移動を助ける役割を担っていると考えられる。



写真の説明：周辺緑地との位置関係
（国土地理院地図を用いて作成）



写真の説明：周辺緑地の状況（三田丘の上公園）

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
サッポロ広場の継続的な管理を通じて、在来種を中心とした健全な生態系の保全と充実に取り組むとともに、多様なステークホルダーを巻き込み、グループ会社の事業特性に応じたイベントを実施することで、生物多様性の啓発に取り組む。 植物 ・庭園のメンテナンス管理の際に樹木の植え替えが必要になった場合、在来種を中心に植栽を行う。 ・フィールドを活用したイベントや、象徴的な果樹の観察会など、生態系サービスの啓発に資するイベントを実施する。 動物 ・植栽樹や植栽草本を植える際に鳥の餌となる在来種を植える。 ・水浴びをするバードバスや、繁殖用巣箱の設置など、定期的な管理を行う。	**【モニタリング対象】** 植物、鳥類（モズのはやにえ確認）、昆虫類および小動物 **【モニタリング場所】** サッポロ広場（恵比寿神社など含む）および周辺緑地 **【モニタリング手法】** 植物：広場内に生育する樹木等について生育状態を確認する。 鳥類、昆虫類および小動物：対象区域内を任意に歩き回って目視・鳴き声等により生息種を確認。モズのはやにえ確認も同様に行う。 **【モニタリングの実施時期及び頻度】** 植物：10月頃(年1回)、鳥類：1月頃・6月頃(年2回) モズのはやにえ確認：10月頃(年1回) 昆虫および小動物：10月頃(年1回) **【モニタリング実施体制】** サッポロ不動産開発経営企画部（事務局） 調査・実施：事務局が関連するグループ会社内ネットワークを活用して適宜実施体制を構築する。 モニタリングのアドバイス：グリーンフロント研究所(株)等